

西ノ前型土偶を持つ 地域のまつりからみた社会

西ノ前型土偶が分布する地域の社会

西ノ前型土偶が分布する山形・宮城・福島の蔵王山麓を中心とした地域では、西ノ前型土偶のほかに、まつりの道具として鍔付栓状耳飾・煙管状土製品・三角形土製品が使われています。この地域では、表のように、西ノ前型土偶と鍔付栓状耳飾・三角形土製品・煙管状土製品の3点のいずれかがまつりに用いられています。まつりの道具について約束ごとを同じくする集団の地域であったと考えられます。

各遺跡の土偶と土製品の組み合わせ

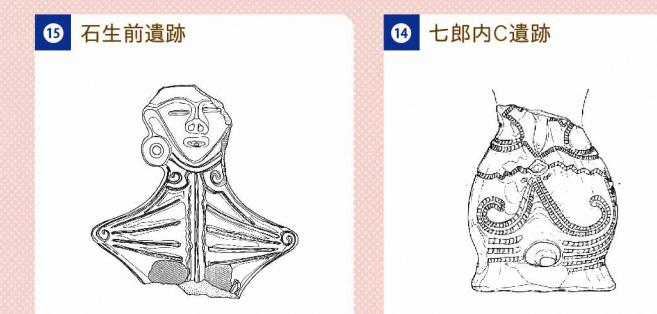
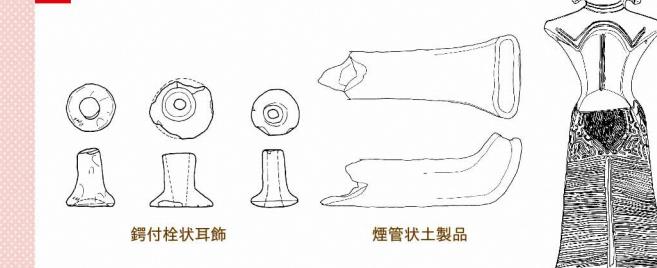
	西ノ前型土偶	鍔付栓状耳飾	煙管状土製品	三角形土製品
①西ノ前遺跡	○	○	○	—
②水木田遺跡	○	○	—	—
③原ノ内A遺跡	○	—	—	—
④思い川A遺跡	○	—	—	○
⑤台ノ上遺跡	○	○	—	○
⑥和台遺跡	○	—	—	—
⑦月崎A遺跡	○	○	○	○
⑧小梁川遺跡	○	—	—	○
⑨谷地遺跡	○	○	—	○
⑩中ノ内A遺跡	○	○	—	○
⑪上野遺跡	○	—	○	○
⑫高柳遺跡	○	—	○	○
⑬法正尻遺跡	×	—	—	—
⑭七郎内C遺跡	×	—	—	—



会津地方・県南地方の社会

西ノ前型土偶が使われていた頃、西ノ前型土偶と異なる特徴の土偶が分布する会津地方や県南地方では、鍔付栓状耳飾・煙管状土製品・三角形土製品はほとんど使われていません。これらの地域は、西ノ前型土偶の地域とはまつりの約束ごとが異なる集団の地域であったことを物語っています。土器の特徴からは、関東地方や北陸地方との交流が強い地域であったと考えられます。

しかし、会津地方や県南地方の土偶は、西ノ前型土偶と胴や足の形が類似しており、西ノ前型土偶が分布する地域と会津地方・県南地方は、まつりの約束ごとが異なる地域であっても、有機的なつながりはあったと考えられます。



令和4年度

土偶フォーラム しゃがむ土偶を考える

2022年
11月20日日

午後1時30分～3時30分

お問い合わせ 福島市文化振興課
TEL.024-525-3785

しゃがむ土偶がうまれる前の 土偶とその社会

～国宝「縄文の女神」とその仲間たちを中心に～



パネルディスカッション

①

第1部 土偶とは？

- ①土偶の出現と変遷そして使われ方
- ②東北地方の縄文時代前期・中期の土偶



コーディネーター
パネリスト
プロフィール



コーディネーター
斎藤義弘氏
公益財団法人福島市振興公社
じょーもびあ宮畑所長



コーディネーター
山田利幸氏
福島市文化振興課
文化財専門員



パネリスト
八木勝枝氏
公益財団法人岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター主任文化財専門員



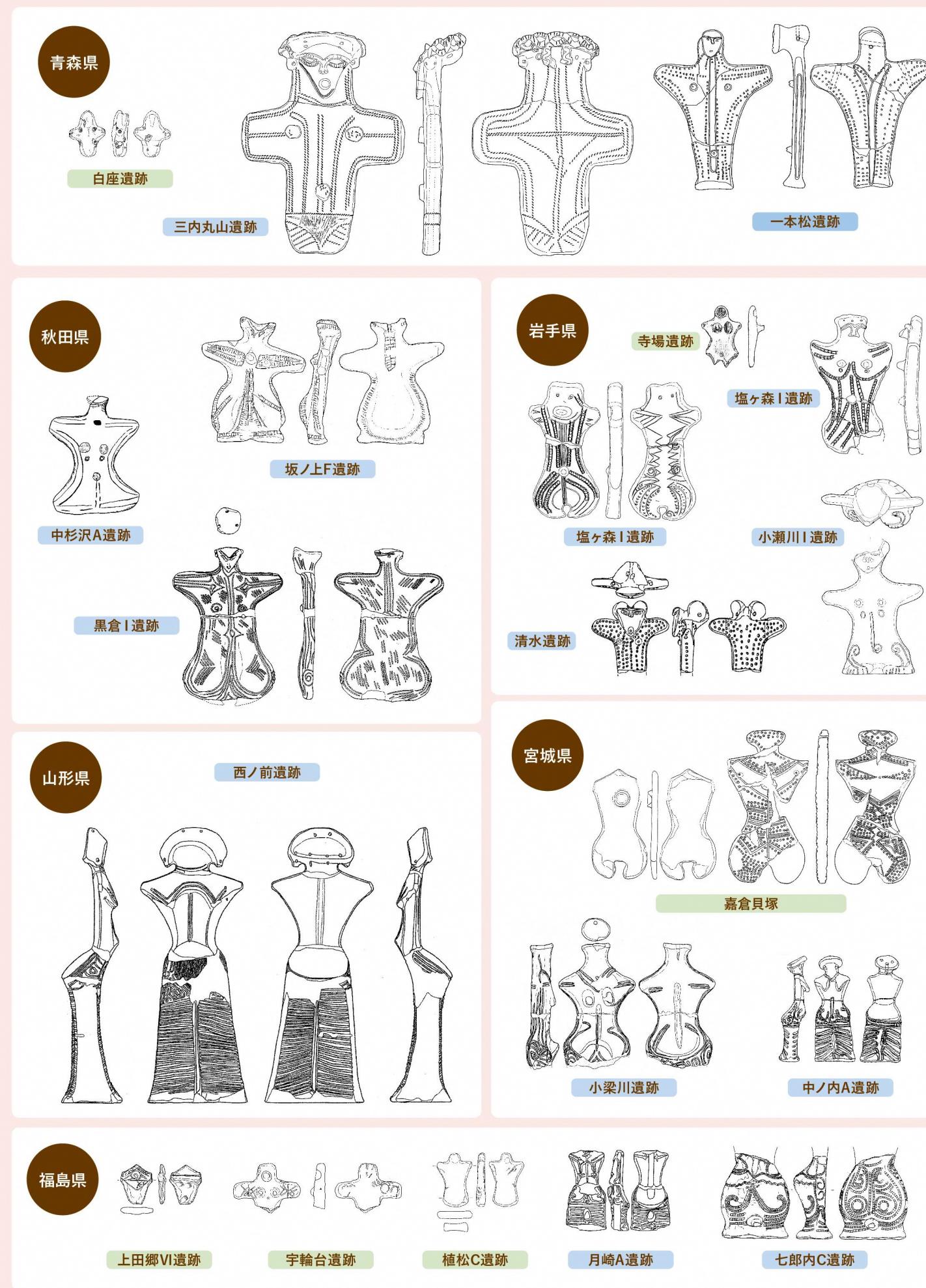
パネリスト
堀江格氏
公益財団法人福島市振興公社
じょーもびあ宮畑所長補佐

しゃがむ前の 土偶の社会

- ①「縄文の女神」とその仲間の土偶が使われた社会
- ②「縄文の女神」の次に出現した土偶たち



東北地方の縄文時代前期・中期土偶



..... 縄文時代 前期

..... 縄文時代 中期

東北地方南部 縄文時代中期の土偶と土器

縄文時代中期に、西ノ前遺跡の「縄文の女神」と同じ特徴を持つ「西ノ前型土偶」が、蔵王山を中心とした山形県・宮城県・福島県北部に分布しています。両脚で自立し、背面に凹線があり、臀部は無文で両脚に沈線が表現されているなどの共通点があります。その一方で、西ノ前遺跡の土偶の乳房がW表現で長脚であるのに対し、台ノ上遺跡では、乳房が丸い粘土の貼り付けで短脚が主体であるなどの地域差がみられます。

また、西ノ前型土偶と同時期、福島県内の会津地方や県南地方では、背中に凹線がなく、臀部全面に文様が施される、西ノ前型土偶とは異なる特徴を持つ土偶が分布しています。西ノ前型土偶では少ない顔が表現される土偶も見られます。この地域では、西ノ前型土偶が分布する地域では見られない、関東地方や北陸地方の影響が強い土器も使われています。



西ノ前型土偶



会津地方・県南地方の土偶